

【科研費応募支援ニュースレターNo.7】 発信日 230726 (水)  
タイトル\_科研費申請書の書き方：「1 研究目的、研究方法など」

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。  
7月14日には科研費公募が開始となりました。  
科研費応募支援ニュースレター、前回から4回は、申請書の書き方に関する内容です。(独)日本学術振興会の小寺孝太郎氏セミナー、水谷夏樹先生・田原弘一先生・木元小百合先生による「学内講師による科研費セミナー」においてお教えいただいたこと、科研費関連本『科研費 獲得の方法とコツ』(児島将康 著)、『できる研究者の科研費・学振申請書』(科研費.com 著)等からの情報、ささやかな自分の経験などから、エッセンスのみですが、本学でも一番申請数の多い「基盤C」申請を想定して、書かせていただきます。

審査委員は応募するテーマに精通していることはなく、申請書の内容は何も知らないと思って、わかりやすく御記載ください。

今回は、申請書で最も重要な部分である「1 研究目的、研究方法など」の書き方についてです。この部分は、研究計画調書の枠内に(1)から(5)までの書くべきことが記載されています。枠内には、この順番通りに書くようには記載されていないからか、書きにくいためか、たまにこの順番を入れ替えて書かれる先生がおられます。しかし、100件以上の申請書を見ることになる審査委員の立場にたてば、この通りの順で御記載いただくのが望ましいと思います。

(1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

「本研究の学術的背景」と「研究課題の核心をなす学術的「問い」」のように、小分けにすると書きやすいかもしれません。

「本研究の学術的背景」には、他の研究者によって行われてきたこれまでの成果を書きます。次に申請者自身がこの課題に関して行ってきた成果を論文も入れて、書きます。この2つは段落をわける方がいいかもしれません。まぜて書かない方が、審査委員へ、申請者の能力を強くアピールできます。

「研究課題の核心をなす学術的「問い」」は何かを、明確に御記載ください。

「研究課題の核心をなす学術的「問い」は〇〇〇〇である。」といった書き方で、1回読んだだけで、問いが何かをわかるようにするのもいいと思います。

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性

この部分も「本研究の目的」と「学術的独自性と創造性」に小分けにして書く方が書きやすいかと思います。

「本研究の目的」には、どのような問題点があるから、どのような研究を行って、なにを明らかにするのか、明らかにして、どうする（どうなる）のかについて数行程度でわかりやすい文章で、ご記載下さい。

「学術的独自性」には、この申請課題は申請者が行うのが最も適している理由を書くのがよいと思います。申請者しか持っていないアイデアがある、申請者しか持っていない試料やデータを持っている、申請者しかできないテクニックを用いる等、この研究課題を行うのに最適な人物は申請者しかいないということを書いて下さい。

「創造性」には、申請課題の成果の波及効果の大きさをご記載下さい。

(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ  
この部分も「本研究の着想に至った経緯」と「関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」に分けて書く方が書きやすいかもしれません。

「本研究の着想に至った経緯」には、申請者の今までの研究生活で、本申請に至ったオリジナルな経緯を書いてください。「思い」や「熱意」が審査委員に伝わるようにして下さい。

「関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」には、「研究背景」と重なる部分があるのですが、その書き分けは『科研費 獲得の方法とコツ 改訂第8版』（児島将康 著）の146頁にわかりやすく書かれています。「研究背景」では過去から現在までの時間軸で、「関連する国内外の研究動向」は現在の時点と書き分けて下さい。その中で申請者の研究はどの部分に貢献できるかを明確にご記載下さい。

(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか  
とくにこの部分は「研究目的」と並んで、一番大切です。基盤Cであれば1～1.5頁は御記載ください。申請者の実行可能性を示すためには、綿密な研究計画を示すのが必須です。

ここの冒頭にも、概要を簡潔に記載しておく方が、あとの流れとして書きやすいと児島先生が言われています。

実施可能性を審査委員にアピールするためには、具体的な研究計画が必須です。研究計画の流れやタイムテーブルなどの図示も理解を進めるために重要です。初年度については特に入念にご記載ください。自分では当たり前なので書かないで済ませる部分があると、審査委員にとって、わかりにくくなる場合があります。研究が予定どおりいかない場合の対策もご記載下さる方が、実行可能性のアピールのためによいです。

研究体制も図で示していただくとわかりやすいです。研究分担者がおられる場合にはその役割を明確に記載することは必須です。単独の申請であっても、研究協力者等がおられる場合には、積極的にご記載いただく方が、実行可能性をアピールしやすいです。

行う実験（調査）を箇条書きにするだけでは、単なる作業リストですので、個別の実験（調査）の目的をまず記載してから、具体的な実験（調査）を述べ、その結果として予想されることや展開を述べて下さい。

いずれも具体的にわかりやすくご記載下さい。自分はよく知っているのに、こんなことは書かなくてもと思うことも、きっちり書く方が審査委員にはわかりやすくなると思います。

経費に書かれている備品や人件費の目的や用途が、この中に書かれていないということがないようにしてください。

#### (5)本研究の目的を達成するための準備状況

申請課題に関わる未発表のデータがあれば、図や表にするなどして、是非とも、ここに御記載ください。これは、特に申請者による申請課題の実行可能性を示すのに強力な切り札です。

その他、必要な資料や試料を入手できていることや、共同研究者との打ち合わせ状況なども書いておくといいです。

今回は、「2 応募者の研究遂行能力及び研究環境」について述べる予定です。

本学 web サイト【研究・社会連携≫科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援に関する情報が掲載されています。

[https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid\\_scientific\\_research.html](https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html)  
【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただきたいと思っております。気軽にお付き合いいただき、なにかすこしでも先生方のお役に立てればと願っております。

ご不明点、ご意見などございましたら、メールで URA 高木敦子まで、お伝えいただきますよう、お願い致します。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

失礼致します。